

〈世界無形遺産〉



金春流

大槻能楽堂

令和8年9月16日(水) 午後6時開演 (午後5時15分開場)

大阪金春会

番組

〈舞囃子〉

佐保山	シテ	金春	穂高
小督	シテ	金春	飛翔
	笛	赤井	啓三
	小鼓	荒木	建作
	大鼓	辻	芳昭
	太鼓(佐保山)	上田	慎也

〈狂言〉

文山立	シテ	善竹	隆司
	アド	小西	玲央

〈能〉

黒塚	シテ	高橋	忍
雷鳴ノ出	ワキ	福王	知登
	ワキツレ	喜多	雅人
	間	善竹	隆平
	笛	赤井	要佑
	小鼓	荒木	建作
	大鼓	辻	雅之
	太鼓	上田	悟

附祝言

佐保山 (さおやま)

藤原俊家(ワキ)春日大社に参詣し、四方の気色をながめていたところ、佐保山の上に白雲のように見える物があり不審に思い登って見た。多くの女性が衣をさらしていたのでそのいわれを尋ねた所、これは人間の織った衣ではなく、和歌に「たちぬわぬ衣きし人もなき物を何山姫の布さらすらん」と詠まれたのもこの衣なのですということであった。女(シテ)はさらに春日山、三笠山、佐保山等、奈良の景色や、その山神の神徳と君が代の万歳をことほぎ、とてもことに佐保山の神祭りを見せましようと言って姿を消してしまっ。やがて音楽がきこえ花が降り、世を守る佐保山の山神(後シテ)があらわれ、神楽を奏したというめでたい曲である。

金春流のみに伝わる女神の祝言能で、舞囃子では後シテ佐保山姫の真ノ序ノ舞を中心に紋服にて舞う。

小督 (こごう)

高倉の院の臣下(ワキ)から平の清盛に憎まれていなくなってしまった小督を探すようにとの宣旨を伝えられた弾正の大弼仲国(シテ)は秋の満月の夜、嵯峨野に駒を走らせる。片折戸と琴の音だけが手掛かりである。ようやく隠れ家を探し当て、押し問答のすえ小督(ツレ)と対面した仲国は、無事に高倉の院の御書を手渡すことが出来た。小督は酒宴を催し、仲国は勅命を果たした喜びにあふれて舞を舞い、返書を携えて都へ帰る。

酒宴の席での仲国(シテ)の喜びの舞(男舞)を中心に紋服にて舞う。

黒塚 雷鳴ノ出 (くろづからいめいので)

熊野の阿闍梨祐慶(ワキ)と同行の山伏(ワキツレ)は、廻国行脚の途中、陸奥の安達が原で宿を借りる。主の女(シテ)は憂き世に生きる辛さを嘆きつつ、糸操りのわざを見せてもてなすが、留守中に闇を見ないように言っって薪を採りに出かける(中入)。女との約束を破って闇をのぞいたところ、そこには死骸が山と積まれていた。驚いて逃げる山伏を、本性を現した鬼女(後シテ)が追いかけて、違約を責めて襲いかかるが、ついに祈り伏せられ、姿を消す。

今回は雷鳴ノ出という(特殊演出)がつき、後シテは本来赤頭のところ白頭となる。装束も、前シテ後シテとも常と違い、後シテの登場シーンも特殊な出となり、よりドラマチックな演出となっている。